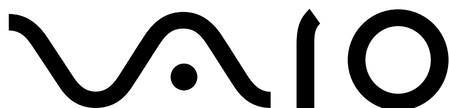
SONY

ホームサーバー

VGF-HS1 シリーズ
スタート ガイド





はじめて使うときは

本書では、本機でできることや、本機の設置・接続から本機を使うための準備と基本操作を説明しています。
本機を使い始める前に、以下の流れで準備してください。

1. ハードウェアの接続・設定を行う（12ページ）

- 設置する
- ネットワークに接続する
- 電源につなぐ
- 電源を入れる

ここまでで、下記の機能が使えるようになります。(38ページ)

- ネットワークハードディスク
- DLNA対応機器へのコンテンツの配信
- おまかせコピー



さらに、以下の機能(44ページ)を使うにはソフトウェアのインストールと初期設定が必要です。

- 自動アップロード
- データリンク
- リストアツール

2. ソフトウェアのインストールと初期設定を行う（44ページ）

- 付属のCD-ROMを使って、ソフトウェアのインストールを行う
- 初期設定を行う

基本的な設定の完了後、設定を変更したいときや困ったときなどは取扱説明書をご覧ください。

目次

はじめて使うときは 2
こんなことができます 4
付属品を確かめる 9

接続と準備 11

準備する 11
- 準備の流れ 11

1 ハードウェアの接続・設定を行う 12
- 設置する 12
- ネットワークに接続する 14
- 電源につなぐ 35
- 電源を入れる 37

基本的な機能を使う 38
- ネットワークハードディスクとして使う 38
- DLNA対応機器へコンテンツを配信する 39
- 写真や動画を取り込む(おまかせコピー) 42

2 ソフトウェアのインストール・初期設定を行う 44
- ソフトウェアのインストールを行う 46
- 「PC Link」ソフトウェアの初期設定を行う 47

その他 50

用語集 50

付属の説明書について

本機には、以下の説明書が付属しています。

- **取扱説明書**：本機の取扱情報を記載しています。
- **スタートガイド(本書)**：本機の接続と準備の方法を記載しています。
- **ソフトウェア等に関する重要なお知らせ**：
  本機をお使いになるための重要なお知らせが記載されています。

本書で使われているイラストについて

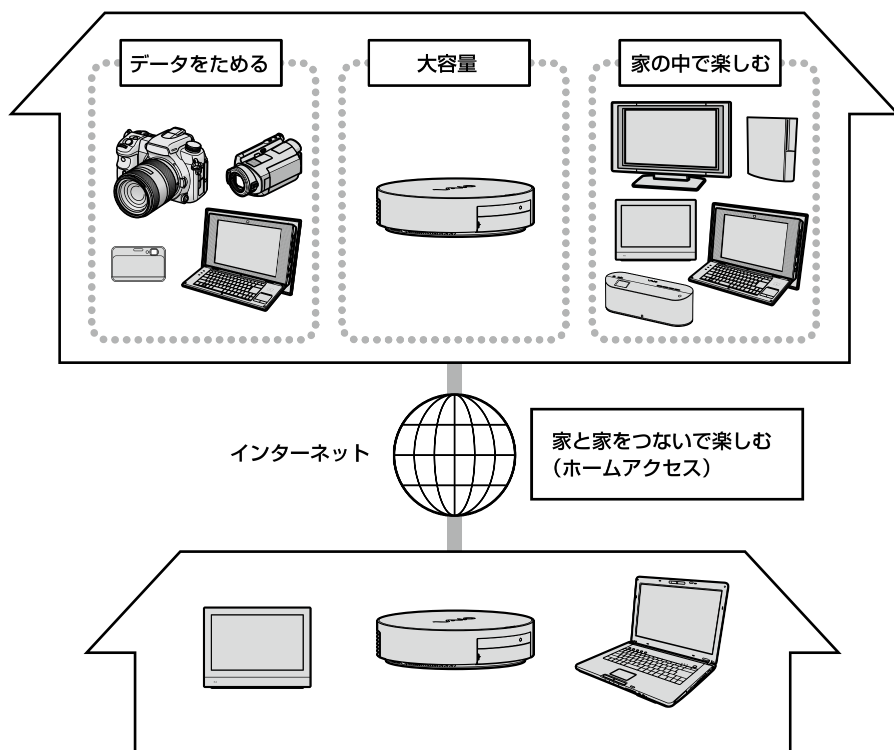
本書で使われているイラストや画面は、実際のものと異なる場合があります。

こんなことができます

本機では、ホームネットワークやインターネットに接続されたコンピュータに保存されているデータや音楽／写真／動画コンテンツを保存できます。
本機に保存したコンテンツは、本機とネットワーク接続したリビングのテレビやオーディオ機器などで楽しめます。
さらに、遠方の家族や友人と、インターネット経由で写真や動画などを共有して楽しむこともできます。

ご注意

本機内のコンテンツを視聴するためには、本機に接続するテレビやオーディオ機器はDLNA（Digital Living Network Alliance）ガイドラインに対応したネットワーク機器（以降、DLNA対応機器と記載します。）である必要があります。

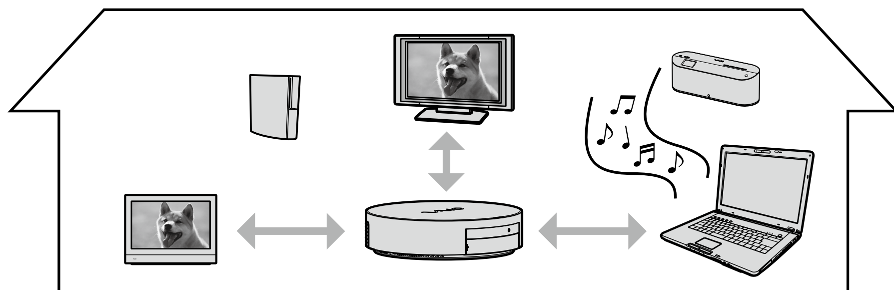


家の中で楽しむ

本機にためた音楽／写真／動画コンテンツを、以下のようなDLNA対応機器で視聴できます。

- Digital Photo Frame VGF-CP1
- ソニー製液晶テレビBRAVIAなどのネットワーク対応テレビ
- PLAYSTATION3
- ワイヤレスデジタルオーディオ VGF-WA1などのDLNA対応のオーディオ機器*

  * 気分やシーンにあわせて、「おまかせチャンネル」を利用して音楽再生を楽しむこともできます。



次のページにつづく

家と家をつないで楽しむ(ホームアクセス)

インターネットを経由して、遠方の家族や友人のコンピュータやホームサーバー VGF-HS1シリーズに、本機内の動画や写真コンテンツを送付できます。
また、家族や友人側から本機にアクセスして本機内の動画や写真コンテンツを見てもらうこともできます。

- コンピュータのWebブラウザから本機にアクセスすると、アルバム名で整理された写真コンテンツをWebページで楽しめます(VAIO Picture Lab)。
  パスワードを設定して本機へのアクセスを制限することもできます。

  ヒント

  VAIO Picture Labについて詳しくは、取扱説明書の「使いかた」－「ホームアクセス機能で楽しむ」の「VAIO Picture Labを使う」をご覧ください。

- Digital Photo Frame VGF-CP1で本機に保存した写真コンテンツを見ることができます(**メディア共有機能**)。

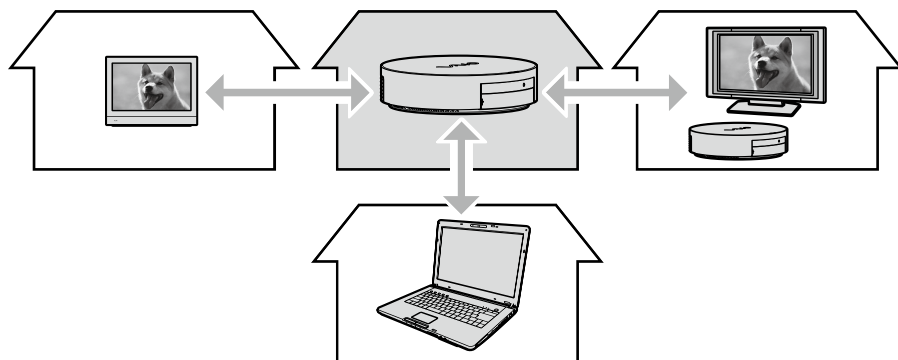
  ヒント

  メディア共有機能について詳しくは、取扱説明書の「使いかた」－「ホームアクセス機能で楽しむ」の「ホームアクセス メディア共有を使う」をご覧ください。

- 動画や写真コンテンツを、本機からコンピュータまたは他のホームサーバーに転送したり、コンピュータまたは他のホームサーバーから本機へ転送したりできます(**データリンク機能**)。
  コンピュータや他のホームサーバーから本機に送られて保存されたデータは、他のコンピュータやDLNA対応機器で見ることができます。

  ヒント

  データリンク機能について詳しくは、45ページや取扱説明書の「使いかた」－「ホームアクセス機能で楽しむ」の「家の外のコンピュータやホームサーバーにデータを転送する(データリンク)」をご覧ください。



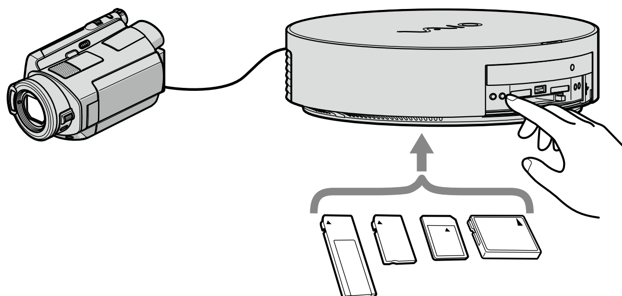
ご注意

ホームアクセス機能を利用するには、利用するための準備や機器間での設定が必要です。詳しくは、取扱説明書の「使いかた」の「ホームアクセス機能で楽しむ」をご覧ください。

写真やビデオをためる

本機は大容量のデータ保存機器としても使えます。

- USBマスストレージクラス対応のデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラ内の写真や動画コンテンツを、ボタンを押すだけで本機に取り込めます（**おまかせコピー機能**）。



- コンピュータ内の指定したフォルダのデータを、本機に自動的にコピー（アップロード）できます（**自動アップロード機能**）。
  自動アップロード機能を使うと、コンピュータで作成したり編集したりした写真や動画コンテンツや、CDから取り込んだ音楽ファイルをコンピュータに保存するだけで、本機にも同じデータを自動的に保存できます。
- 本機に保存した音楽／写真／動画コンテンツは、DLNA対応機器やコンピュータのWebページから、日付やアルバム名などで分類され整理された状態で楽しめます。

次のページにつづく

便利なハードディスクとして使う

本機は、複数のコンピュータで同時に使えるネットワークハードディスクとしても使えます。

- 複数のコンピュータで共有して使いたいデータを本機に保存することで、いつでもどのコンピュータからでも同じデータを利用できます。
- 共有フォルダごとに、読み書きできるユーザーや読み込みだけできるユーザーをパスワード付きで指定できるので、指定したユーザー以外にアクセスされたくないデータも保存できます。

コンピュータのデータをバックアップする

コンピュータ内のバックアップしたいフォルダを自動アップロードの対象に指定すれば、データを本機に自動的にバックアップできます。

コンピュータのハードディスクが壊れた場合でも、データを本機からリストアできます。

本機のデータをバックアップする

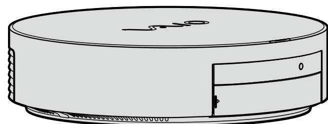
本機に保存してあるデータを別売りのUSBハードディスクドライブにバックアップできます。

バックアップしたデータは本機に戻すことができます。また、「リストアツール」を使ってコンピュータにコピーすることもできます。（45ページ）

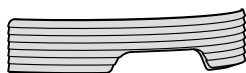
付属品を確かめる

本機の設置・接続を始める前に、まず付属品を確かめてください。
付属品が足りないときや破損しているときは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にご連絡ください。なお、付属品は本機のみで動作保証されています。
本機の仕様については、取扱説明書の「主な仕様」をご覧ください。

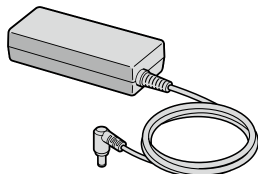
❑ **本体**



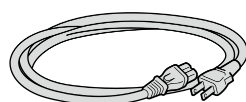
❑ **リアカバー**



❑ **ACアダプター**



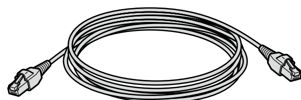
❑ **電源コード**



ご注意

付属の電源コードは、AC100V 用です。

❑ **LANケーブル(ストレート・2 m)**



❑ **取扱説明書**

❑ **スタートガイド(本書)**

❑ **ソフトウェア等に関する重要なお知らせ**

❑ **保証書**

修理の際に必要になります。

❑ **カスタマー登録のお願い**

❑ **CD-ROM**

- **収録されているソフトウェア**
  - PC Link
  - VAIO Media
- **収録されているコンテンツ**

  サンプルコンテンツ
  (お買い上げ時は本機内にも保存されています。)

準備する

準備の流れ

次の流れに従って準備してください。

1. ハードウェアの接続・設定を行う（12〜43ページ）

1. 設置する

2. 本機をネットワークに接続する

3. 付属のACアダプターを使って、本機を電源につなぐ

4. 電源を入れる

以上の準備を行うと、本機の下記の機能がお使いになれます。
それぞれの機能について詳しくは、38ページをご覧ください。

- ネットワークハードディスク
- DLNA対応機器へのコンテンツの配信
- おまかせコピー

コンピュータと接続して活用する下記の機能を使うには、引き続き準備を行う必要があります。
それぞれの機能について詳しくは、44ページをご覧ください。

- 自動アップロード
- データリンク
- リストアツール

2. ソフトウェアのインストールと初期設定を行う（44〜49ページ）

1. 付属のCD-ROMを使って、ソフトウェアのインストールを行う

2. 初期設定を行う

ご注意

本機と接続して使用するコンピュータを再セットアップ（リカバリ）した場合は、ソフトウェアのインストールと初期設定をやり直す必要があります。

1 ハードウェアの接続・設定を行う

設置する

設置に適さない場所

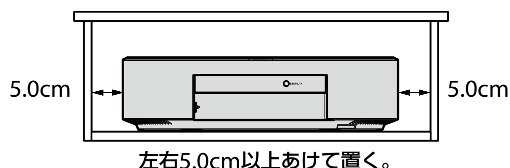
次のような場所には設置しないでください。本機の故障や破損の原因となります。

- 直射日光が当たる場所
- 磁気を発生するものや磁気を帯びているものの近く
- 暖房器具の近くなど、温度が高い場所
- ほこりが多い場所
- 湿気が多い場所
- 風通しが悪い場所

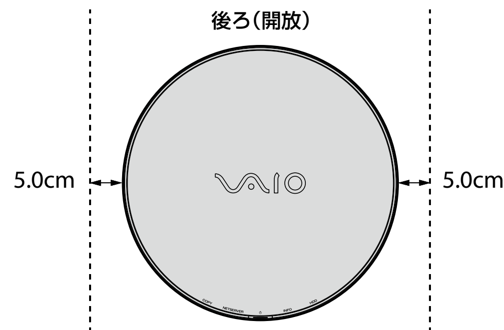
設置時のご注意

次のことをお守りください。





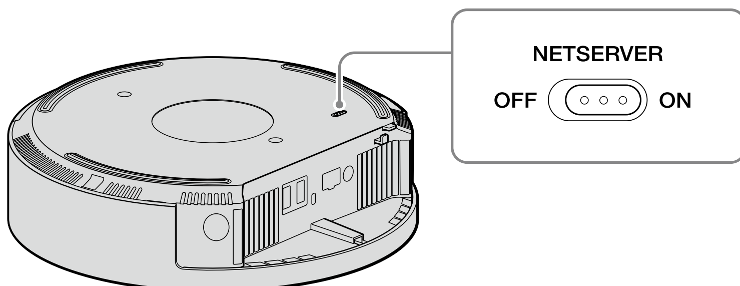
底部、側部、および後面の吸気口をふさがない。
平らで固い台に設置して、下部の隙間を物などでふさがない。



熱が内部にこもり、火災や故障の原因となるため、全体を密閉しない。
後面の冷却用ファンと、側部と底部のファン通気孔から充分空気が抜けるように解放状態にする。

NETSERVERスイッチについて

ホームアクセス機能（6ページ）で、コンピュータなどの機器から本機にインターネットを経由してアクセスできるようにする場合は、本機底面のNETSERVERスイッチがオンになっているか確認してから設置してください。



故障を避けるためにも、次のことをお守りください。

- 本機を移動するときは、必ず電源を切る。
  電源が入っている状態で移動したり、動かしたりするとハードディスクの故障の原因となります。
  移動するときは、接続ケーブルをすべて取りはずしてください。
- 本機を倒したり、ぶつけたりしない。
  小さな衝撃や振動でもハードディスクの故障の原因となります。
- 不安定な場所に設置しない。
- 通風孔に物を置かない。
- 縦置きしない。
  本機を縦置きすると、状態が不安定となり、転がって故障したり、周囲を傷つけたりすることがあります。
- 本機の上に磁力のあるものを置かない。
- 本機の上に乗らない、指定以外の製品を乗せない。
  本機の上に下記以外の製品を乗せないでください。（2008年5月現在）
  – 地上・BS・110度CSデジタルハイビジョンチューナー　VGF-DT1
  – テレビサイドPC　VGX-TP1シリーズ、VGX-TP1Vシリーズ
  – ホームサーバー　VGF-HS1シリーズ
  また、2台以上積み重ねないでください。倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。また、積み重ねによる変色が生じることがあります。

取扱説明書に記載されている、「安全のために」や「その他」の「使用上のご注意」もご覧ください。

ネットワークに接続する

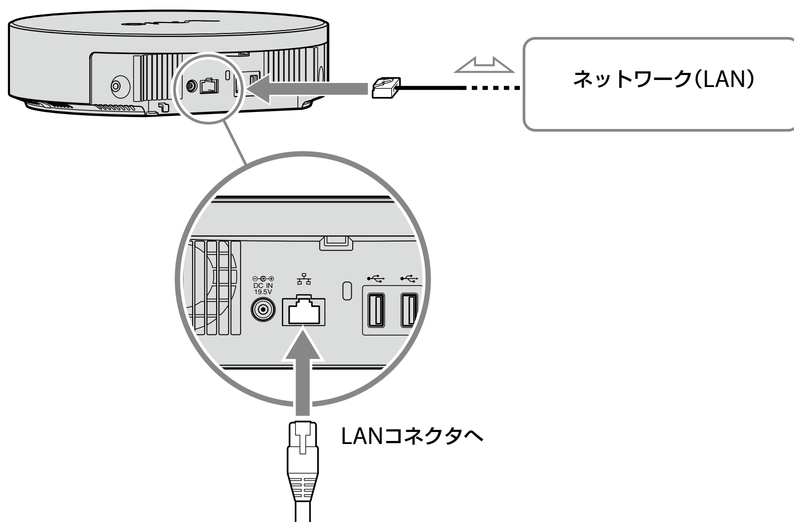
本機をご家庭のネットワークに接続します。
次の方法があります。

- 有線で接続する方法（14 ～ 31ページ）
  「複数のルーターがあるときのアクセス制限について」（34ページ）もあわせてご覧ください。
- 無線で接続する方法（32ページ）

また、ワイヤレスデジタルオーディオを本機と接続する場合は「ワイヤレスデジタルオーディオで本機内の音楽を聞くには」（40ページ）をご覧ください。

有線で接続するには

付属のLANケーブルを、背面のLANコネクタに接続します。



本機は、1000BASE-T、100BASE-TXまたは10BASE-Tタイプのネットワークに接続できます。

ご注意

本機のLANコネクタに次のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。特に、ホームテレホンやビジネスホンなどの回線には、絶対に接続しないでください。

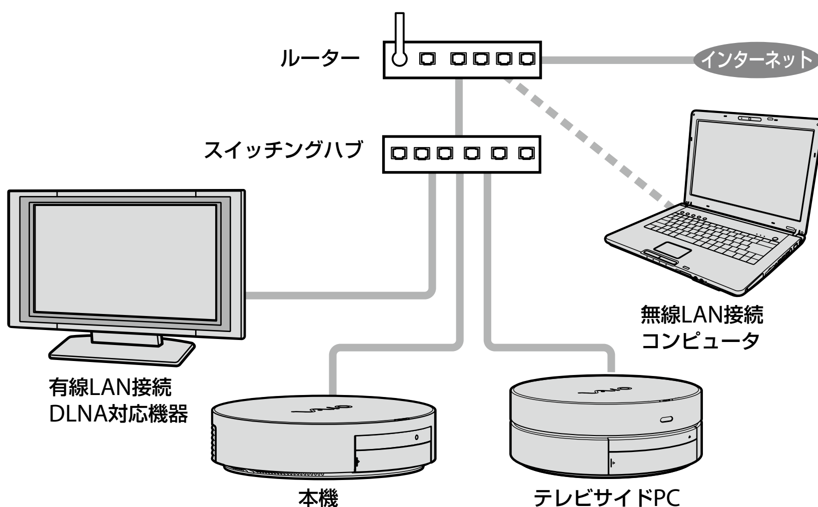
- 10BASE-T、100BASE-TXまたは1000BASE-Tタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- ISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャック
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

ヒント

10BASE-Tタイプのネットワークに接続した場合は、データ転送速度が遅いためファイルのコピーに時間がかかったり、映像がコマ落ちして再生されたり、音楽再生中に音飛びが発生したりすることがあります。
1000BASE-Tまたは100BASE-TXタイプのネットワークに接続することをおすすめします。

ネットワークに接続するために必要な周辺機器については、17ページ以降の接続図をご確認ください。
また、ネットワークに接続するための設定については、ご加入のプロバイダの設定方法や、お使いになるモデムや接続している周辺機器の取扱説明書を参照して設定を行ってください。

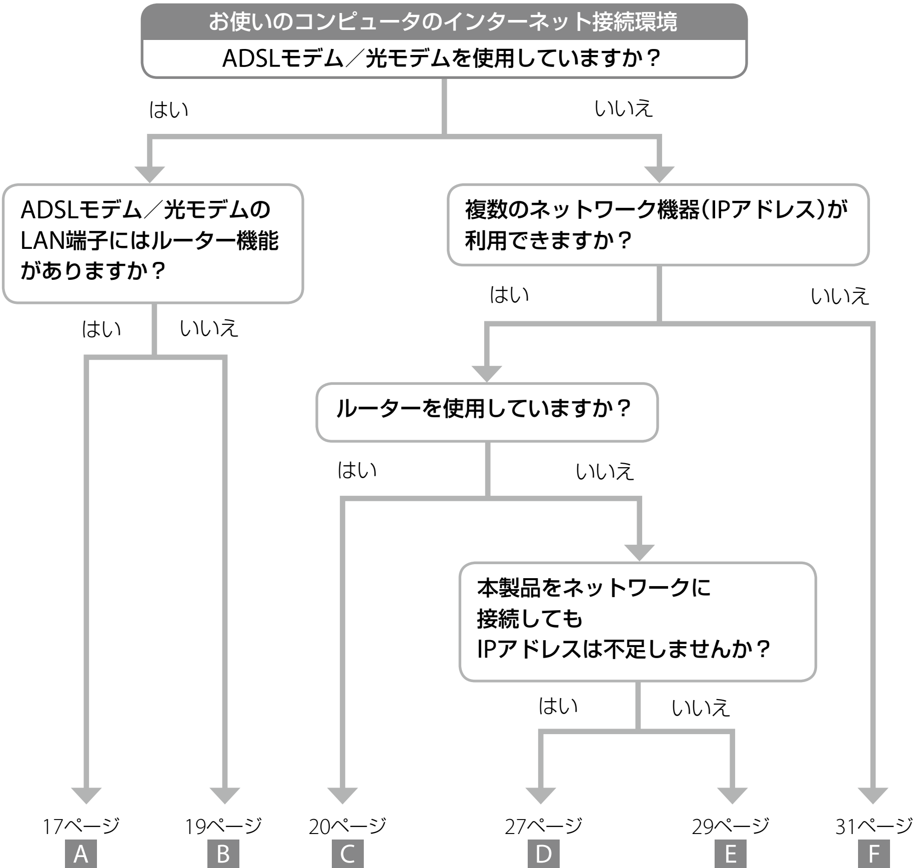
❑ 接続例



本機をネットワークに接続する方法は、ご使用の環境によって異なります。下記をご参照いただき、ご自分の環境にあった接続方法を探してください。

ご注意

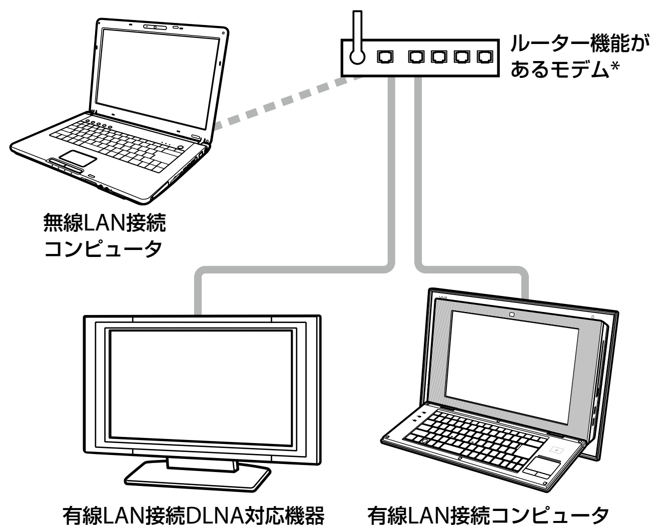
下記の質問事項について不明な点がある場合は、ご加入のプロバイダにお問い合わせください。または、お使いのADSLモデム／光モデムに付属の取扱説明書をご覧ください。



A

現在ご使用のネットワーク環境の例：

■■■■■：無線LAN接続　▬▬▬：有線LAN接続



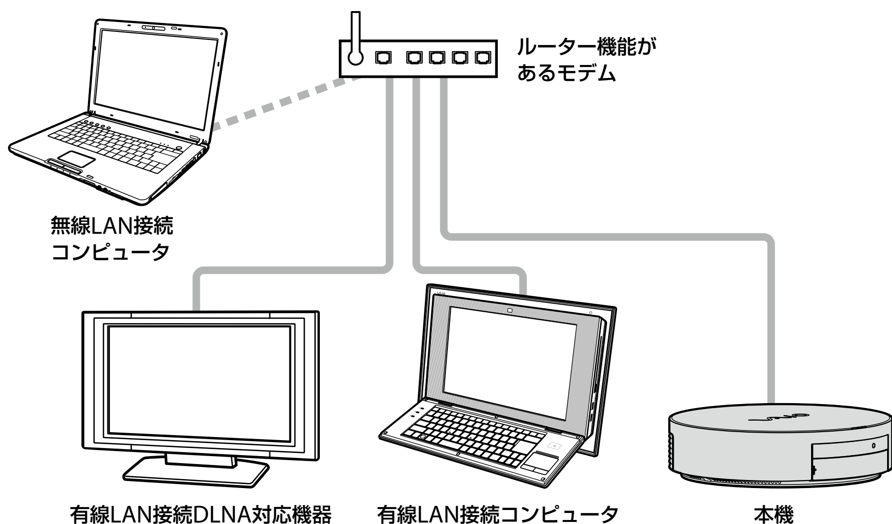
* ルーターの無線LANアクセスポイント機能の有無は、本機の接続に影響ありません。

次のページにつづく

次の接続例に従って本機をネットワークに接続してください。

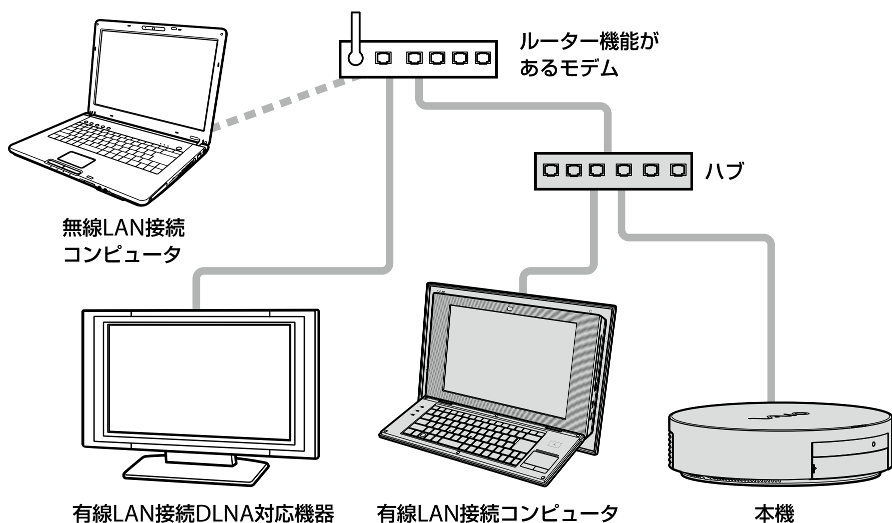
❑ 接続例1：ルーターに空きポートがある場合

ルーターの空きポートに本機を接続します。



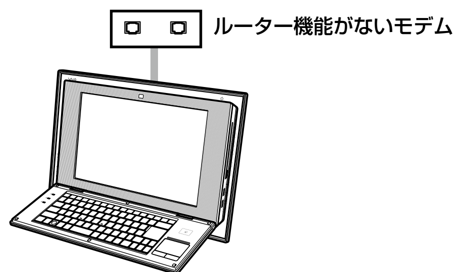
❑ 接続例2：ルーターに空きポートがない場合

ハブを追加し、ハブに本機を接続します。既存のコンピュータはハブへ接続を変更します。



B

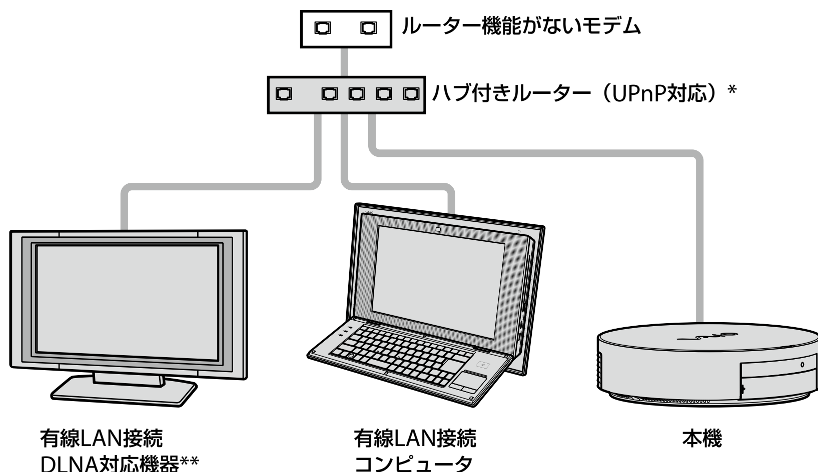
現在ご使用のネットワーク環境の例：



次の接続例に従って本機をネットワークに接続してください。

❑ 接続例

UPnP対応のルーターを追加し、ルーターに既存のコンピュータと本機を接続します。
ルーターの選びかたについては、ご加入のプロバイダや販売店にご相談ください。また、ルーターの設定方法はルーターに付属の取扱説明書やプロバイダの案内をご覧ください。



* ルーターの無線LANアクセスポイント機能の有無は、本機の接続に影響ありません。

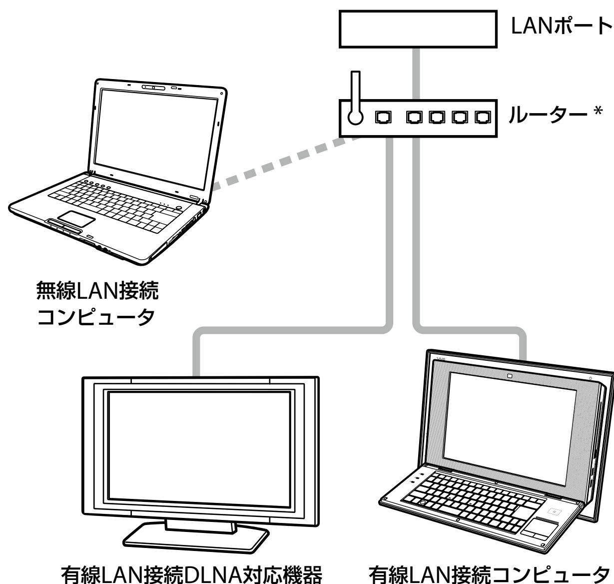
** ルーターを追加した場合は、ネットワーク機器を追加できます。

次のページにつづく

C ケース1（LANポートに1台のルーターだけ接続されている場合）

現在ご使用のネットワーク環境の例：

▪▪▪▪▪：無線LAN接続　▬▬▬：有線LAN接続



* ルーターの無線LANアクセスポイント機能の有無は、本機の接続に影響ありません。

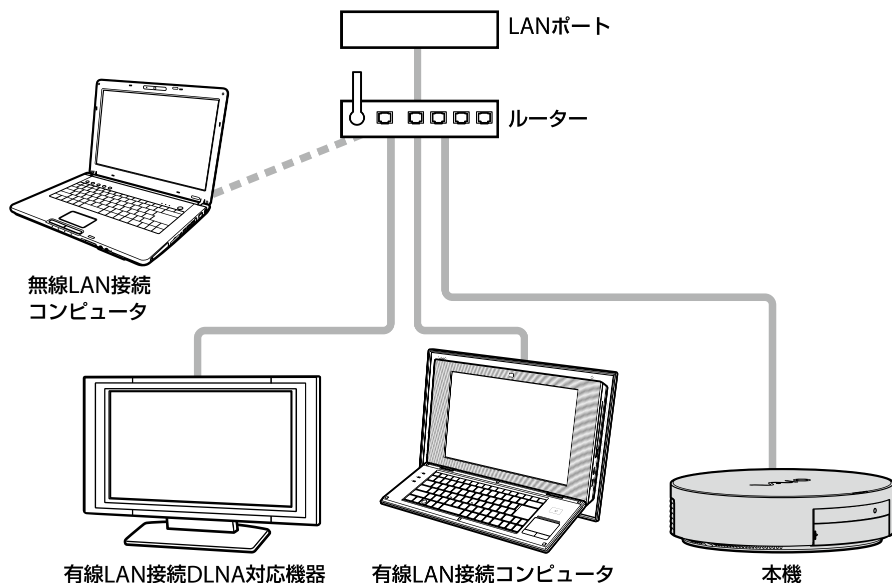
次の接続例に従って本機をネットワークに接続してください。

ご注意

ルーターを使用する場合、ルーターのWAN側ポートにもネットワーク機器があると、本機で使用できる機能に制限が出るため（34ページ）、同一ネットワーク内になるように各機器を接続することをおすすめします。

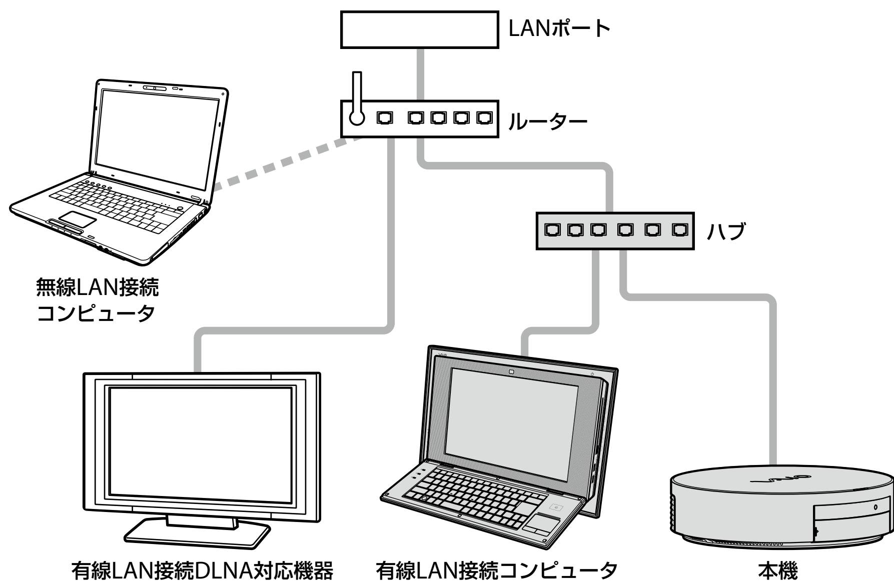
❑ 接続例1：ルーターに空きポートがある場合

ルーターの空きポートに本機を接続します。



❑ 接続例2：ルーターに空きポートがない場合

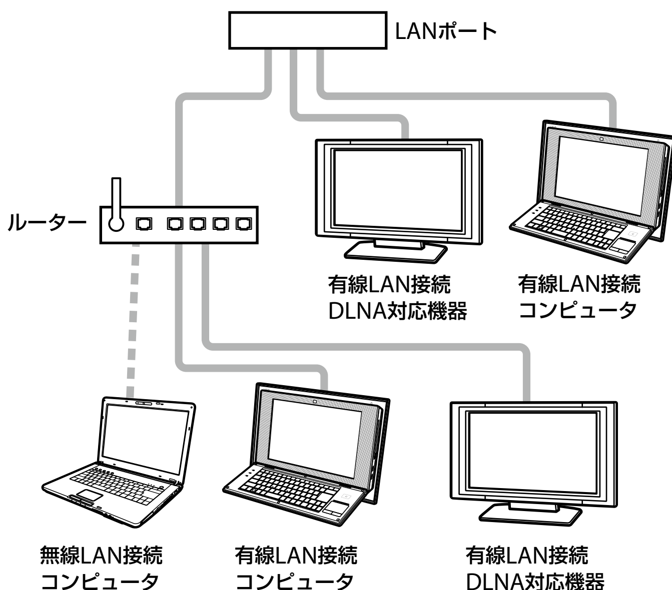
ハブを追加し、ハブに本機を接続します。既存のコンピュータはハブへ接続を変更します。



C ケース2（LANポートにコンピュータなどの複数のネットワーク機器とルーターが接続されている場合）

現在ご使用のネットワーク環境の例：

■■■■■：無線LAN接続　▬▬▬：有線LAN接続



次の接続例に従って本機をネットワークに接続してください。

ご注意

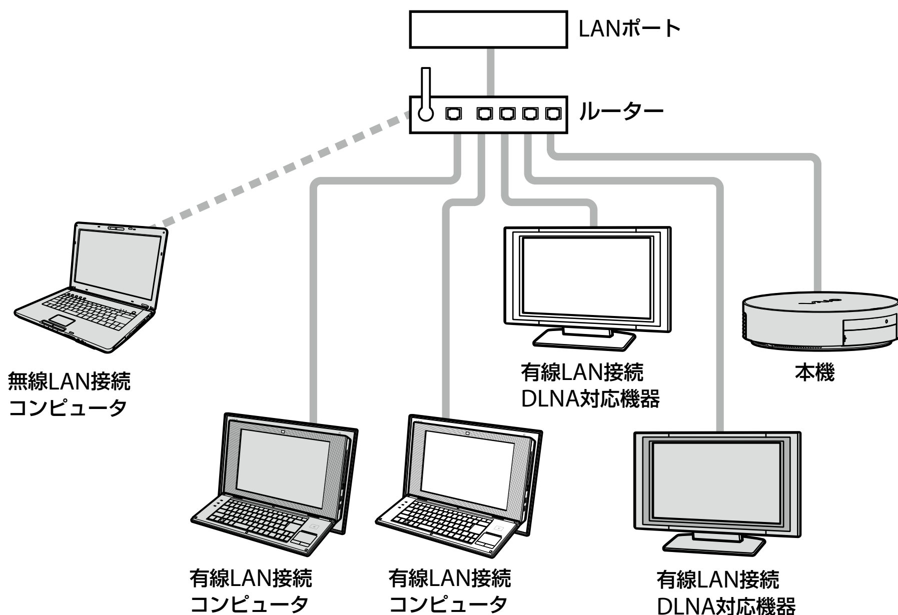
- 本機に割り振られるIPアドレスがグローバルIPの場合、管理者登録が必要です。管理者登録後、設定ページでDLNA対応機器の登録と共有フォルダのアクセス設定をすることをおすすめします*。
- ルーターを使用せずにインターネットが利用できるネットワーク環境の場合、外部の見知らぬ機器からアクセスされる可能性がありますので、設定ページで管理者登録をしてDLNA対応機器の登録と共有フォルダのアクセス設定をすることをおすすめします*。
- ルーターを使用する場合、ルーターのWAN側ポートにもネットワーク機器があると、本機で使用できる機能に制限が出るため（34ページ）、同一ネットワーク内になるように各機器を接続することをおすすめします。（24ページ）

* 管理者登録の方法について詳しくは、取扱説明書の「使いかた」－「コンピュータのネットワークサーバー（NAS）として使う」－「共有フォルダを開く」の「本機をグローバルIPでネットワークに接続して使用し、かつ管理者登録していない場合」をご覧ください。

❑ 接続例1

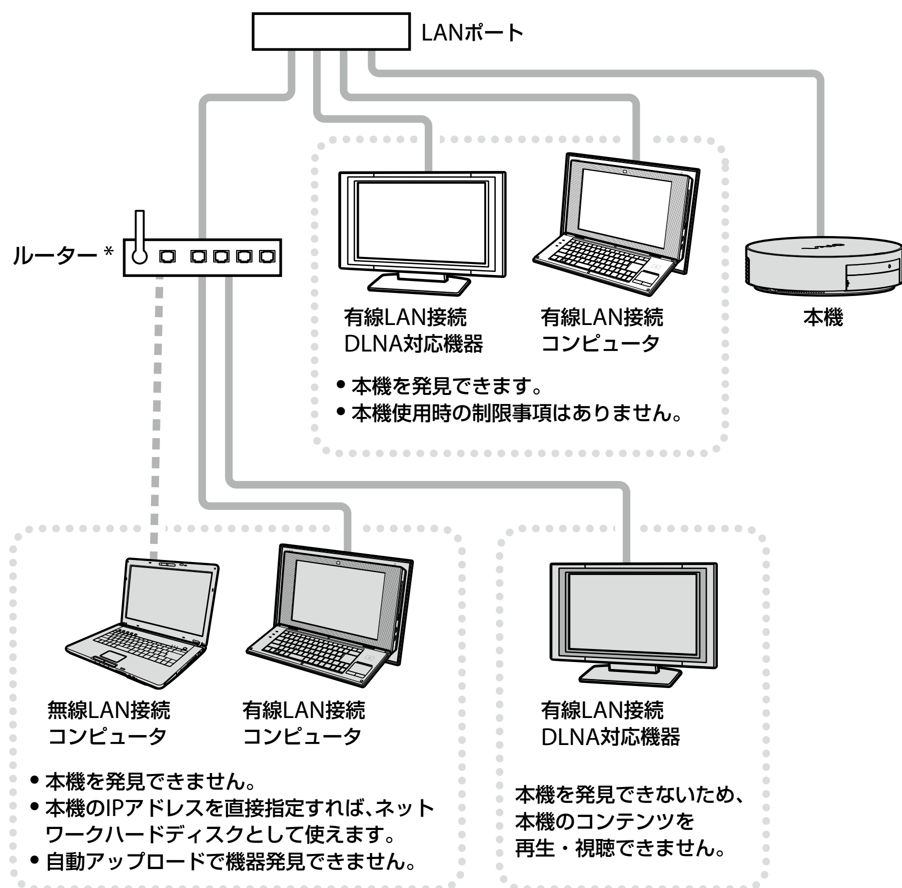
本機とすべてのネットワーク機器をルーターに接続します。

接続例2（25ページ）、接続例3（26ページ）のような接続もできますが、その場合は使える機能に制限が生じます。



❑ 接続例2：LANポートに空きポートがある場合

LANポートの空きポートに本機を接続します。

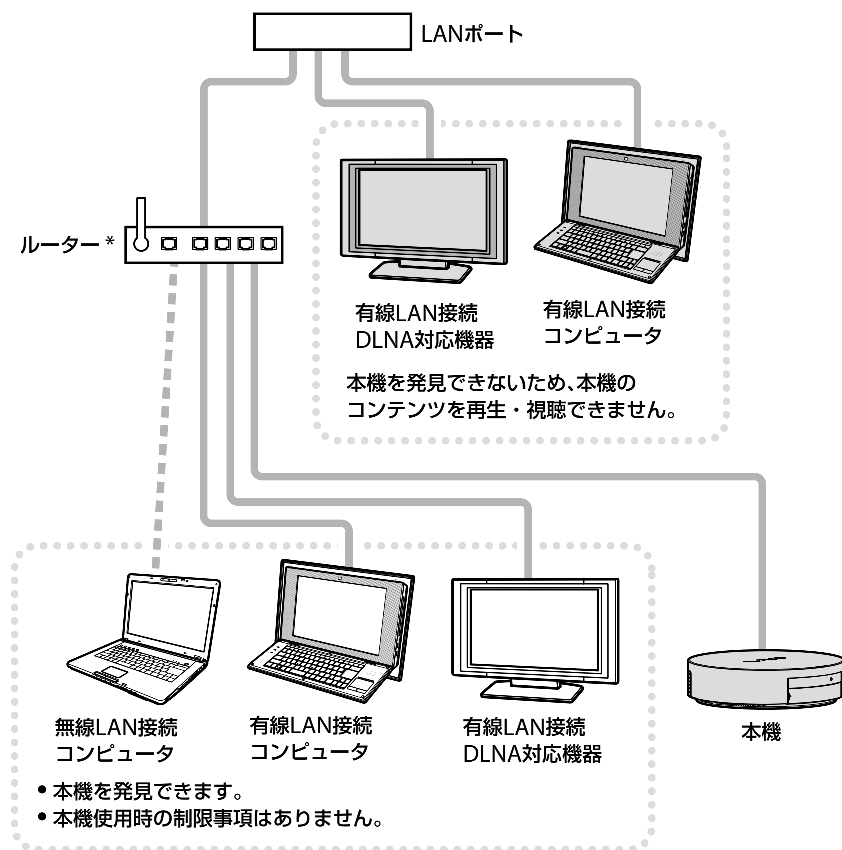


＊ ブリッジ機能がある場合は、ブリッジ機能を有効にすると本機のご使用への制限は回避されますが、接続可能台数を超えるおそれがあります。

次のページにつづく

❏ 接続例3：LANポートに空きポートがない場合

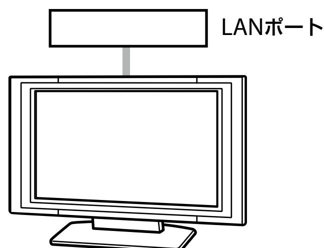
ルーター機能付きアクセスポイントに本機を接続します。



* ブリッジ機能がある場合は、ブリッジ機能を有効にすると本機のご使用への制限は回避されますが、接続可能台数を超えるおそれがあります。

D

現在ご使用のネットワーク環境の例：



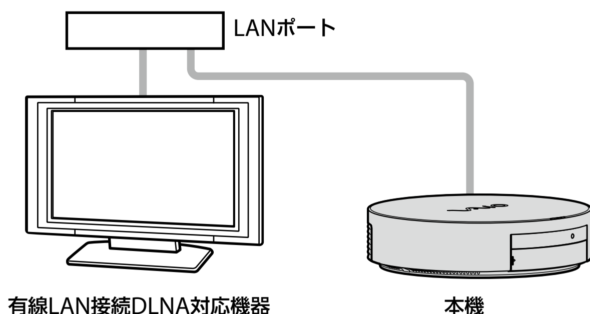
次の接続例に従って本機をネットワークに接続してください。

ご注意

- 本機に割り振られるIPアドレスがグローバルIPの場合、管理者登録が必要です。管理者登録後、設定ページでDLNA対応機器の登録と共有フォルダのアクセス設定をすることをおすすめします。
  管理者登録の方法について詳しくは、取扱説明書の「使いかた」－「コンピュータのネットワークサーバー（NAS）として使う」－「共有フォルダを開く」の「本機をグローバルIPでネットワークに接続して使用し、かつ管理者登録していない場合」をご覧ください。
- ルーターを使用せずにインターネットが利用できるネットワーク環境の場合、外部の見知らぬ機器からアクセスされる可能性がありますので、設定ページで管理者登録をしてDLNA対応機器の登録と共有フォルダのアクセス設定をすることをおすすめします*。

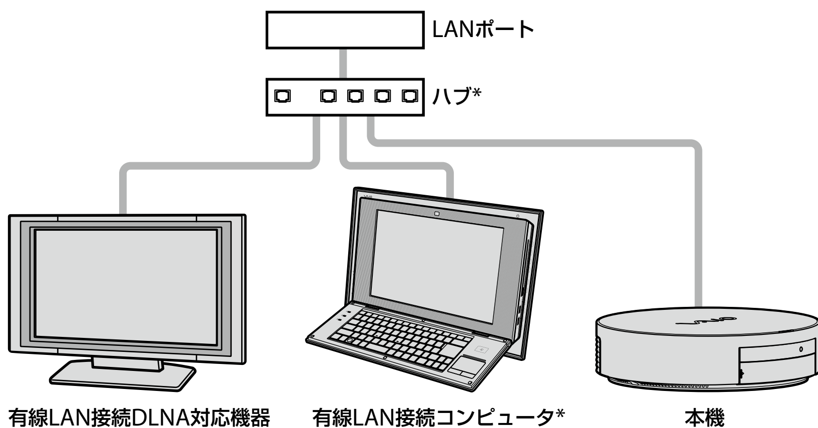
❑ 接続例1：LANポートに空きがある場合

LANポートの空きポートに本機を接続します。



❑ 接続例2：LANポートに空きがない場合

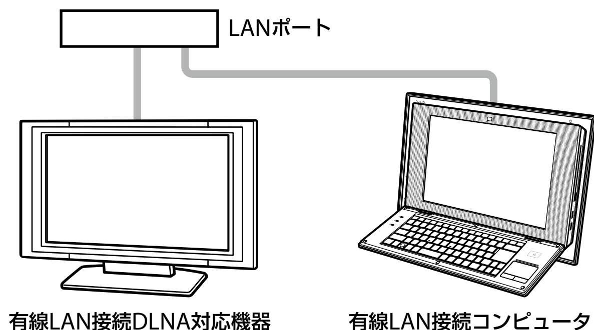
ハブを追加し、ハブに本機を接続します。既存のコンピュータはハブへ接続を変更します。



* ハブを追加した場合は、ネットワーク機器を追加できます。

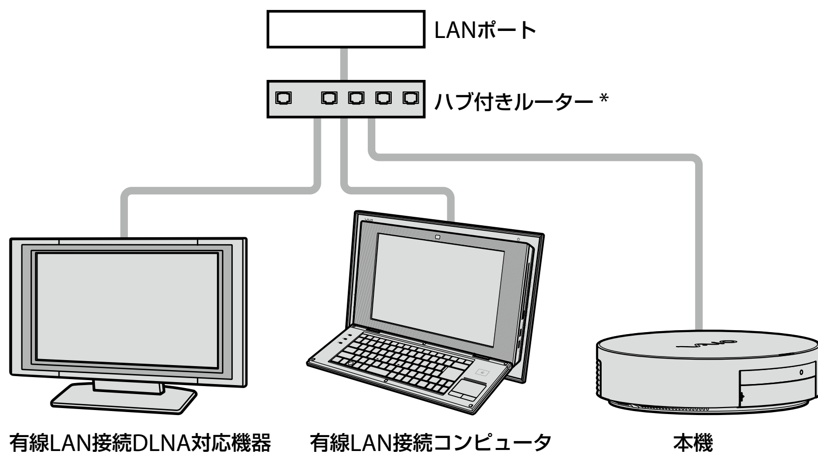
E

現在ご使用のネットワーク環境の例：



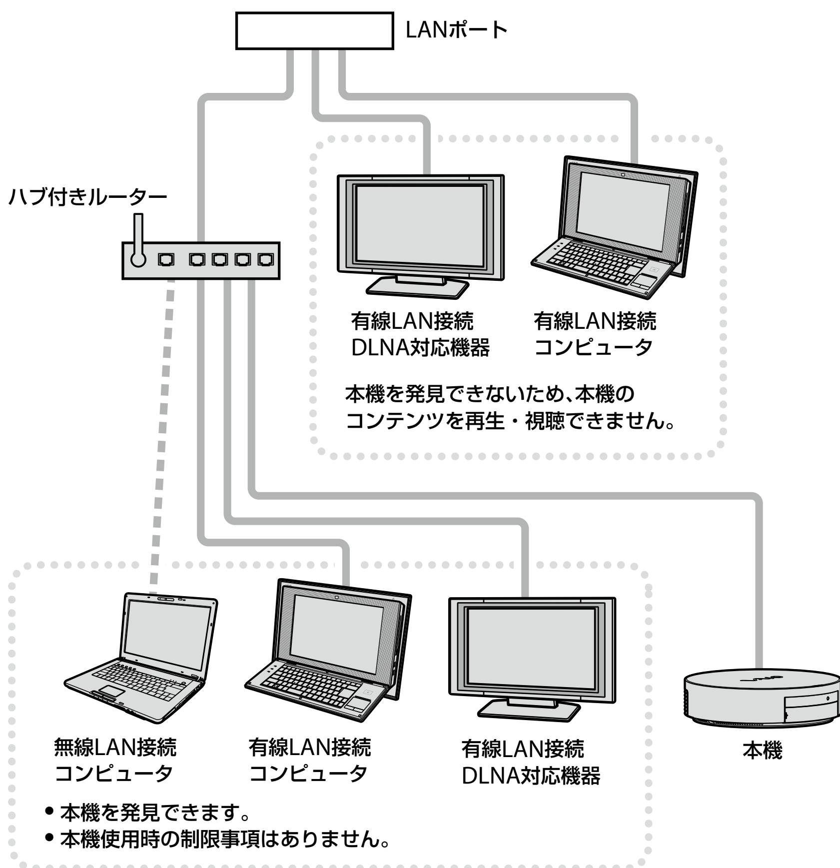
次の接続例に従って本機をネットワークに接続してください。
ルーターを追加し、ルーターに本機を接続します。既存のコンピュータやDLNA対応機器はルーターへ接続を変更します。
ただし、ルーターのWAN側ポートにもネットワーク機器があると、機能に制限が出ますので(34ページ)、同一ネットワーク内になるように各機器を接続することをおすすめします。

❑ 接続例1



* ルーターの無線LANアクセスポイント機能の有無は、本機の接続に影響ありません。

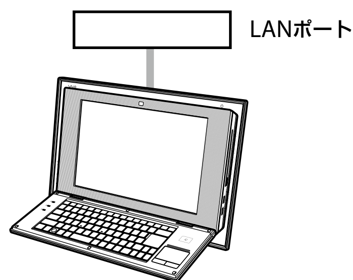
❑ 接続例2



LANポート
ハブ付きルーター
有線LAN接続
DLNA対応機器
有線LAN接続
コンピュータ
本機を発見できないため、本機の
コンテンツを再生・視聴できません。
無線LAN接続
コンピュータ
有線LAN接続
コンピュータ
有線LAN接続
DLNA対応機器
本機
• 本機を発見できます。
• 本機使用時の制限事項はありません。

F

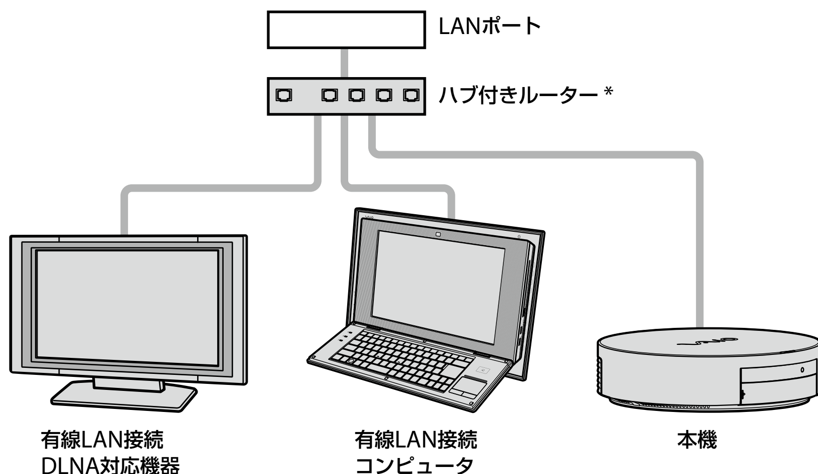
現在ご使用のネットワーク環境の例：



次の接続例に従って本機をネットワークに接続してください。

❑ 接続例

ルーターを追加し、ルーターに本機を接続します。



* ルーターの無線LANアクセスポイント機能の有無は、本機の接続に影響ありません。

次のページにつづく

無線LANで接続するには

有線LANのない環境に設置する場合は、市販のイーサネットコンバーターを使います。

無線LAN使用時におけるセキュリティについて

本機は出荷時において、本機と同じネットワーク内であれば機器やユーザーの制限なく本機のデータにアクセスできる設定になっており、DLNA対応機器も自動登録できる設定になっています。セキュリティ設定のない無線LAN環境では、第三者がお客様の許可なく本機の内容にアクセスするおそれがあります。無断アクセスを防止するためには必ずお使いの無線LAN機器にセキュリティを設定をすることが非常に重要です。セキュリティ対策を施さず、あるいは無線LANの仕様上やむを得ない事情により、セキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

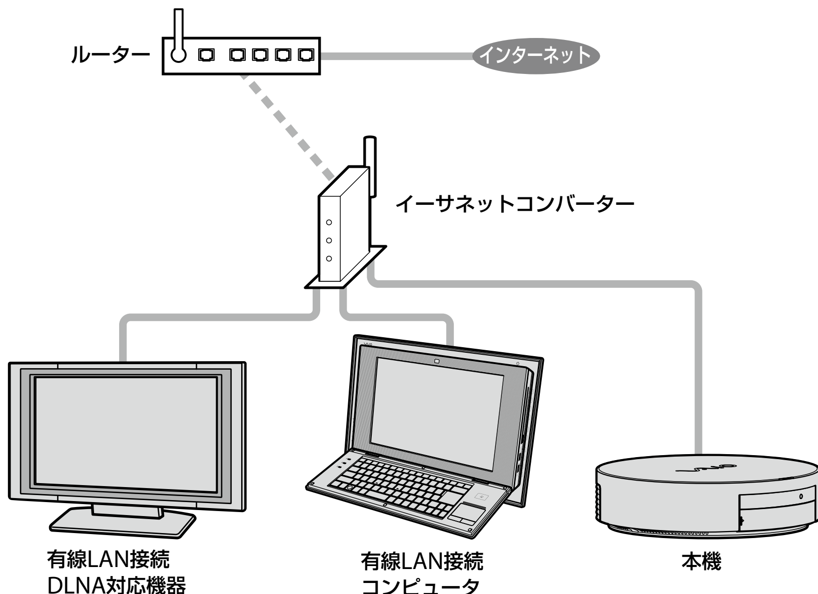
詳細については、http://vcl.vaio.sony.co.jp/notices/security_wirelesslan.htmlをご覧ください。

セキュリティの設定についてはお使いの無線LAN機器の取扱説明書などをご参照ください。

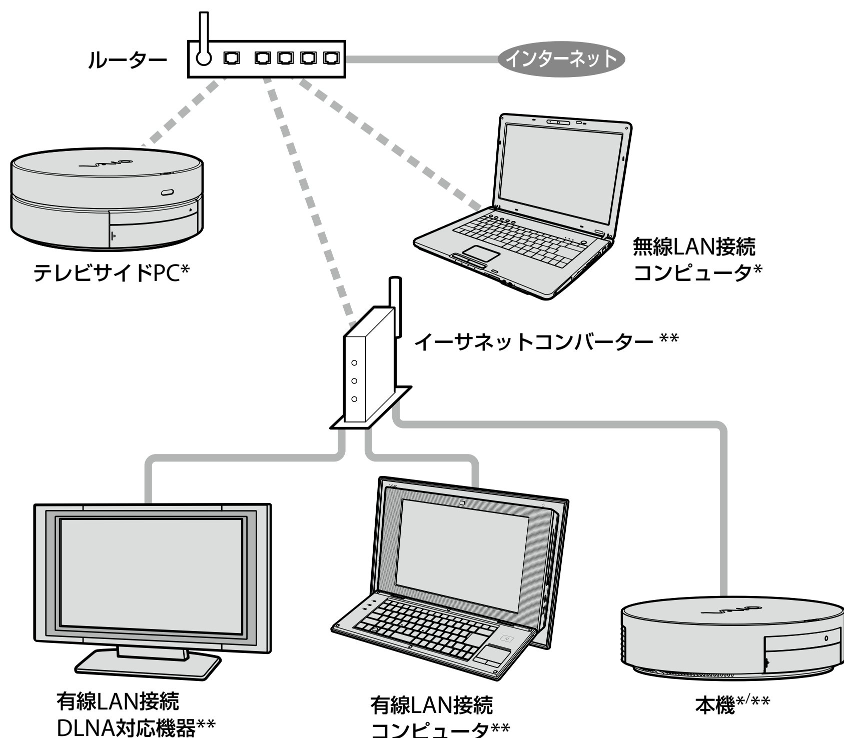
ご注意

無線LANをご利用の場合、無線LANの仕様により充分なネットワークの転送スピードを得られないことがあります。その場合は、ご利用のネットワーク機器を本機と同じ有線ネットワークに接続するか、本機をイーサネットコンバーターを利用せずに有線で接続してください。

❑ 接続例1



❑ 接続例2



* 本機から無線LAN接続コンピュータへのデータ転送速度は、無線LANの仕様により制限されます。そのため、音楽や動画コンテンツの再生時に音とびやコマ落ちなどが発生する場合があります。

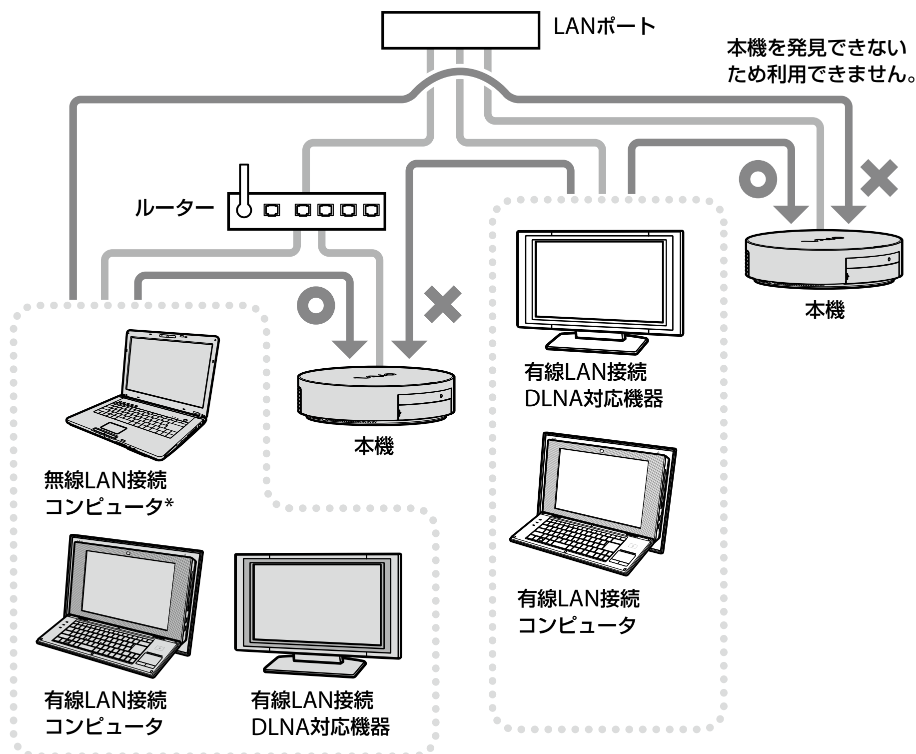
** 本機から有線LAN接続コンピュータや有線LAN接続DLNA対応機器へのデータ転送速度には、無線LANの仕様による制限はありません。

次のページにつづく

複数のルーターがあるときのアクセス制限について

LANポートにネットワーク機器とルーターが接続されていて、さらに、ルーターにネットワーク機器が接続されている場合は、以下のようなアクセス制限が生じます。

○：本機にアクセスできます。
×：本機にアクセスできません。



アクセス制限が起きないようにするには、すべてのネットワーク機器をルーターのLAN側ポートに接続することをおすすめします。

電源につなぐ

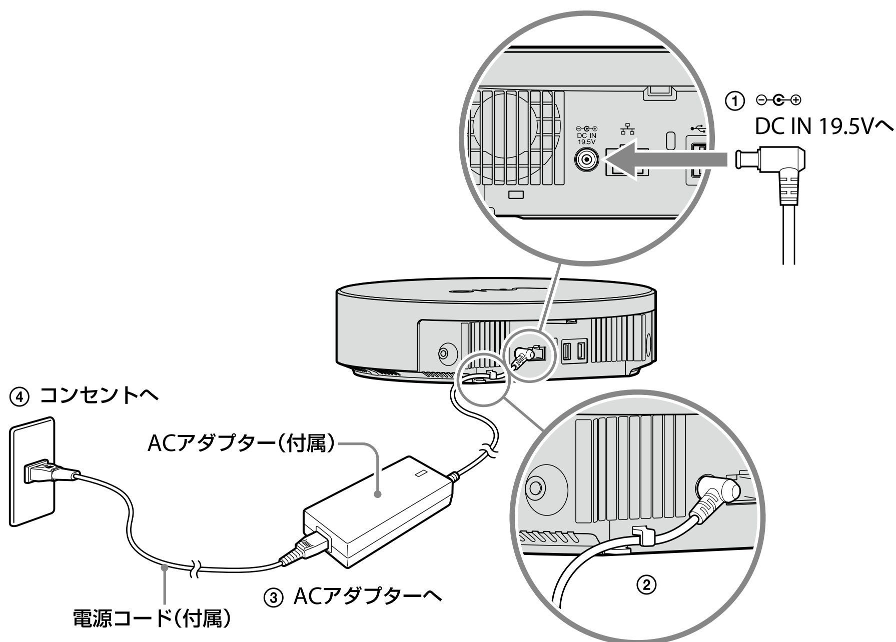
1 付属のACアダプターで、本機と壁のコンセントをつなぐ。

①ACアダプタのプラグを本機に接続する。

②ACアダプターのケーブルをフックにかける。

③ACアダプターに電源コードのプラグを差し込む。

④電源コードのもう一方のプラグを、壁のコンセントに差し込む。



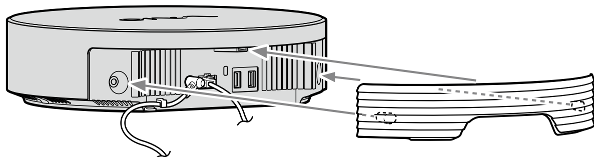
次のページにつづく

リアカバーを取り付ける

ネットワークへの接続や電源ケーブルの接続が終わったら、コネクタ類を保護するリアカバーを後面に取り付けてください。

リアカバー中央の凸部と両端を、後面の凹部に「カチッ」と音がするまではめ込みます。ケーブルはリアカバー下部の切り欠き部分に通します。

後面のコネクタにケーブル類を接続するときは、リアカバーをはずしてください。

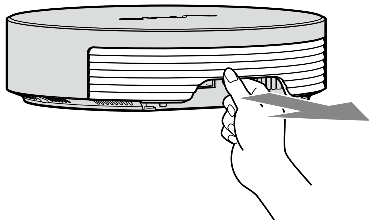


ご注意

- リアカバーをしっかり取り付けていないと、後面に接続したケーブル類に力を加えた際、リアカバーがはずれる場合があります。はずれたリアカバーを踏むなどして、けがの原因となることがありますのでご注意ください。
- 接続するコネクタの種類、大きさによっては、リアカバーを取り付けることができない場合があります。このような場合には、リアカバーを取り付けずにお使いください。
- 本機のご使用中は、後面の排気口およびリアカバーが高温になることがあります。これらの部分に触れるときには充分ご注意ください。

リアカバーをはずすには

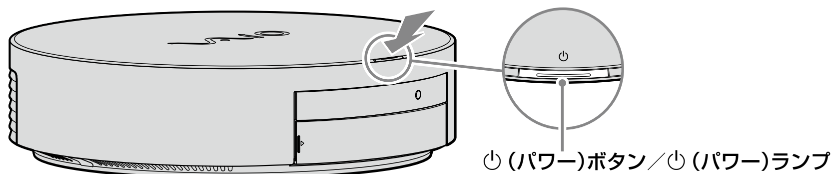
リアカバーを手前に引きます。



電源を入れる

1 ⏻（パワー）ランプがオレンジ色に点滅するまで、⏻（パワー）ボタンを2秒間ほど押し続ける。

しばらくすると本機が起動し、⏻（パワー）ランプが緑色に点灯します。



ヒント

電源についてのご注意は、取扱説明書をご覧ください。

電源を切るには

1 ⏻（パワー）ランプが緑色に点滅するまで、⏻（パワー）ボタンを2秒間ほど押し続ける。

基本的な機能を使う

12 ～ 37ページの準備を行うと、本機の3つの基本的な機能が使えます。

- **ネットワークハードディスクとして使う（38ページ）**
  ネットワークで共有できる、コンピュータのサーバーとしてお使いになれます。
  ネットワーク経由でコンピュータから本機にアクセスし、本機の共有フォルダ内のファイルの読み込み／書き込み、名前の変更、作成、削除ができます。
- **DLNA対応機器へコンテンツを配信する（39ページ）**
  ソニー製液晶テレビBRAVIAやワイヤレスデジタルオーディオ VGF-WA1などのDLNA対応機器と本機をネットワークにつないで、本機内にあらかじめ用意されているサンプルコンテンツを視聴できます。
- **写真や動画を取り込む（おまかせコピー機能）（42ページ）**
  USBマスストレージクラス対応のデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラで撮影した写真や動画を、USBケーブルを経由して、またはメモリーカードから本機に直接取り込むことができます。

ネットワークハードディスクとして使う

本機の共有フォルダへコンピュータでアクセスするには、次の手順に従って操作してください。

1 **コンピュータと本機をLANケーブルでつなぐ。**

2 **［スタート］－［マイ ネットワーク］または［ネットワーク］をクリックする。**

「マイ ネットワーク」または「ネットワーク」画面が表示されます。

ヒント

Windows Vistaをお使いで、手順2の「ネットワーク」画面でネットワーク探索とファイル共有が無効になっているメッセージが表示されている場合は、次の手順に従って操作してください。

1 **メッセージをクリックして表示されたメニューから［ネットワーク探索とファイル共有の有効化］をクリックする。**

「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、内容をご確認の上、［続行］をクリックしてください。

2 **「ネットワークの探索とファイル共有」画面が表示されるので、［いいえ、接続しているネットワークをプライベート ネットワークにします］を選んでクリックする。**

3 [MyStation]をダブルクリックする。

「ヘルプ」フォルダ、「メディア」フォルダが表示されます。

ご注意

「プリンタ」アイコンが表示されることがありますが、本機はプリンタサーバー機能には対応していません。本機にUSBプリンタをつないでコンピュータで使うことはできません。

ヒント

- 本機のネットワークハードディスク名は、お買い上げ時には「MyStation」に設定されています。設定ページから名前を変更できます。
- 「MyStation」が表示されない場合は、取扱説明書の「使いかた」－「コンピュータのネットワークサーバー（NAS）として使う」の「共有フォルダを開く」をご覧ください。
- 「ヘルプ」フォルダには、ネットワークを経由して、本機の設定ページを開くためのURLアドレスのファイルが格納されています。

4 [メディア]をダブルクリックする。

メディアフォルダの中身が表示されます。
メディアフォルダ内にコピーしたデータに、ネットワークにつないだ他の機器からアクセスしたり、作成したフォルダを共有フォルダとして使ったりすることができます。

DLNA対応機器へコンテンツを配信する

❑ ネットワーク対応テレビで本機のサンプルコンテンツを視聴するには

DLNA対応機器で、本機にあらかじめ用意されているサンプルコンテンツを視聴できます。
ここでは、ソニー製液晶テレビBRAVIAでサンプルコンテンツを視聴する方法を説明します。

ヒント

本機は、お買い上げ時の設定では、DLNA対応機器からの接続があった場合に接続を自動的に許可します。

1. **ネットワーク経由でBRAVIAと本機をつなぐ。（14ページ）**
2. **リモコンのホームボタンを押し、BRAVIAに表示された画面で[フォト]、[ミュージック]、または[ビデオ]を選択する。**
3. **リモコンで[MyStation]を選択し、決定ボタンを押す。**
   本機の「Sample」フォルダ内のコンテンツが表示されます。
4. **リモコンで再生したいファイルを選択し、決定ボタンを押す。**
   再生が始まります。
   操作について詳しくは、BRAVIAに付属の取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

❑ ワイヤレスデジタルオーディオで本機内の音楽を聞くには

下記の手順に従って接続するだけで、ワイヤレスデジタルオーディオ VGF-WA1で本機内の音楽コンテンツを手軽に聞けます。
また、本機がインターネットに接続している場合はウェブラジオを聞くこともできます。

ご注意

ワイヤレスアダプタを接続する前に、次のことを確認してください。
確認方法について詳しくは、ワイヤレスデジタルオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

- ワイヤレスデジタルオーディオを最新の状態にする。
  アップデートプログラムについては、以下のWebページをご覧ください。
  VAIOカスタマーリンク製品別サポート情報：http://vcl.vaio.sony.co.jp/support/acc/vgf-wa1.html
- ワイヤレスアダプタのAUTO INSTALLスイッチをOFFにする。
- ワイヤレスデジタルオーディオのPCボタンを押して、PCミュージックファンクションにする。
- ワイヤレスデジタルオーディオの設定の「ネットワーク設定」を「ワイヤレスアダプタ」にする。
  なお、お買い上げ時はこの設定になっています。
- ワイヤレスデジタルオーディオの設定の「サーバー設定」−「サーバー自動接続」を「入」にする。
  なお、お買い上げ時はこの設定になっています。
- ワイヤレスデジタルオーディオのサーバー接続時に選択可能な機器を本機のみにする。

1 **ワイヤレスデジタルオーディオをいったんスタンバイモードにしてから、電源を入れ直す。**

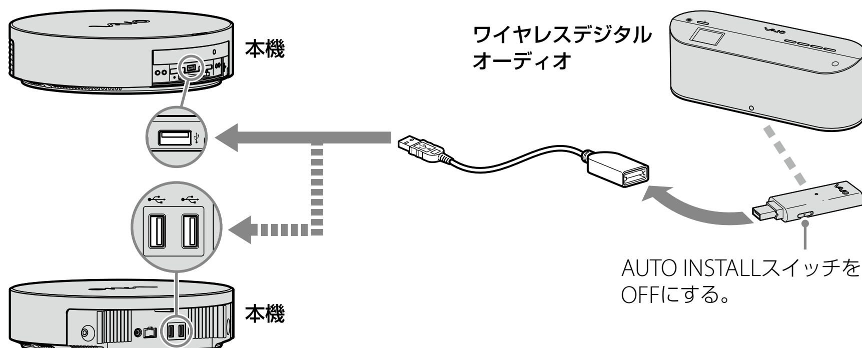
2台以上のワイヤレスデジタルオーディオを機器登録する場合は、続けて他のワイヤレスデジタルオーディオに対しても同じ操作を行ってください。
ただし、一度に登録できるワイヤレスデジタルオーディオは5台までです。

2 **ワイヤレスアダプタに専用ワイヤレスアダプタ接続補助ケーブルを接続する。**

ヒント

ワイヤレスアダプタと専用ワイヤレスアダプタ接続補助ケーブルは、ワイヤレスデジタルオーディオに付属しています。

3 **専用ワイヤレスアダプタ接続補助ケーブルを本機の⫯(USB)コネクタに接続する。**



ワイヤレスデジタルオーディオの探索が開始されます。
しばらくすると、発見されたワイヤレスデジタルオーディオのMACアドレスが本機のディスプレイに表示されます。

ヒント

ワイヤレスアダプタを直接USBコネクタに接続することもできます。

4 **OKボタンを押す。**

ワイヤレスデジタルオーディオが本機に機器登録され、本機に保存されている音楽コンテンツが自動的に再生されます。

- **本機にはじめてワイヤレスデジタルオーディオを登録する場合**
  MACアドレスが表示されてから1分経過すると、自動的にワイヤレスデジタルオーディオが登録されます。
- **本機に2台目以降のワイヤレスデジタルオーディオを登録する場合**
  MACアドレスが表示されてから1分経過すると、ワイヤレスデジタルオーディオは登録されません。1分以内にOKボタンを押してください。

ヒント

- CANCELボタンを押すと機器登録はキャンセルされます。
- アクセスポイントを使った接続もできます。詳しくは、ワイヤレスデジタルオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

次回以降再生するときは

ワイヤレスアダプタを本機に接続するだけで、音楽を再生できる状態になります。

ヒント

ワイヤレスデジタルオーディオの表示窓に本機のMACアドレスが表示されているときは、本機のCANCELボタンを押すと表示を消せます。

その他のDLNA対応機器で本機の音楽／写真／動画コンテンツを視聴する手順について詳しくは、DLNA対応機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

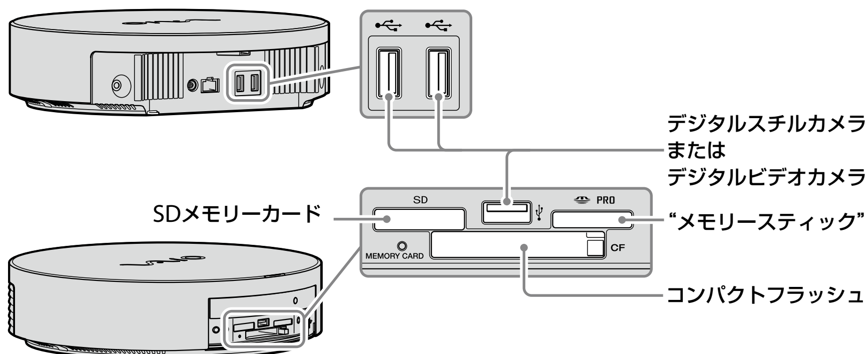
次のページにつづく

写真や動画を取り込む(おまかせコピー)

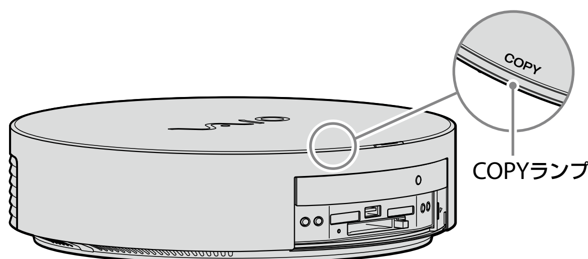
ご注意

デジタルスチルカメラのUSBモードがPTPモードやPictBridgeになっている場合、おまかせコピー機能は使用できません。USBモードをマスストレージモードにしてから下記の手順を行ってください。

1 **USBマスストレージクラス対応のデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラを、USBケーブルで本機の⚲(USB)コネクタに接続する。または、メモリーカードをメモリーカードスロットに入れる。**



本機のCOPYランプが点灯します。



メモリーカードの入れかた/取り出しかた、制限事項などについて詳しくは、取扱説明書の「使いかた」-「コンピュータのネットワークサーバー(NAS)として使う」の「データのストレージ機器として使う」をご覧ください。

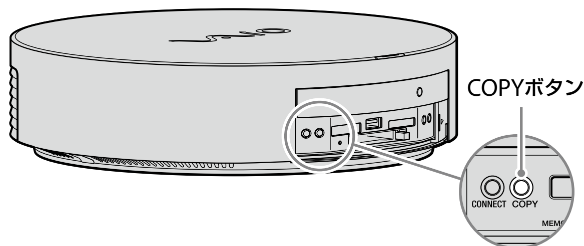
ヒント

本機では、以下のメモリーカードをご使用になれます。

- “メモリースティック”
- “メモリースティック デュオ”
- “メモリースティック PRO”
- “メモリースティック PRO デュオ”
- “メモリースティック PRO-HG デュオ”
- コンパクトフラッシュ
- SDメモリーカード
- SDHCメモリーカード

2 COPYボタンを押す。

ディスプレイに「コピー中」と表示され、コピーの進捗状況が表示されます。コピー中はCOPYランプが点滅します。



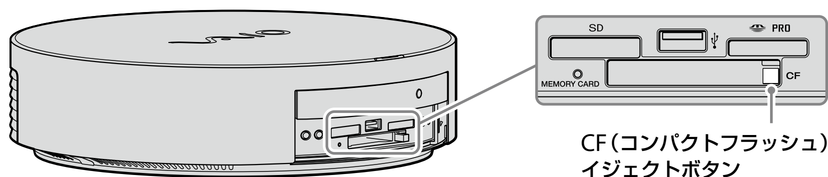
コピーが完了すると、ディスプレイに完了のメッセージが表示され、COPYランプが消灯します。

3 COPYランプが消灯したら、USBケーブルを本機から抜く。または、メモリーカードを本機から取り出す。

メモリーカードを取り出すには

"メモリースティック"またはSDメモリーカードは、いったん奥まで押し込んでから手を離し、引き抜いてください。取り出せないときは、もう一度奥まで押し込んでいったん離してから引き抜いてください。

コンパクトフラッシュは、CF（コンパクトフラッシュ）イジェクトボタンを押して引き抜いてください。



コピーした写真や動画コンテンツが格納されているフォルダを確認するには

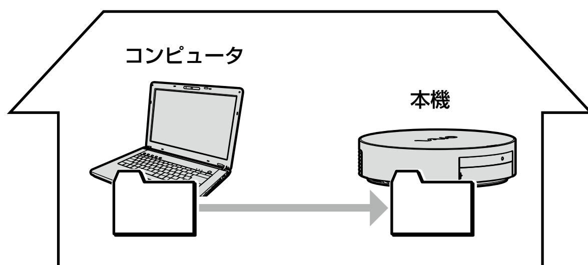
- DLNA対応機器から確認する場合
  本機の「最近取り込んだコンテンツ」フォルダや「フォト」フォルダ内の「アルバム」フォルダで確認できます。詳しくは取扱説明書の「使いかた」－「ホームネットワーク機器につないで楽しむ」の「DLNA対応機器から見た本機のフォルダ構成」をご覧ください。
- ネットワークサーバーとして本機をお使いの場合
  本機の「おまかせコピー」フォルダで確認できます。
  フォルダ構成については、取扱説明書の「使いかた」－「コンピュータのネットワークサーバー（NAS）として使う」の「お買い上げ時のフォルダ構成とアクセス権」をご覧ください。

2 ソフトウェアのインストール・初期設定を行う

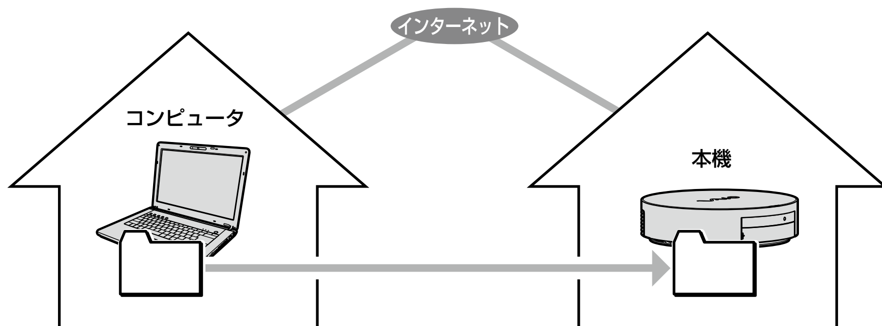
本機とコンピュータの間で自動アップロードやデータリンクなどの機能を使うために、付属のCD-ROMを使ってお使いのコンピュータに下記のソフトウェアをインストールします。

- 「PC Link」ソフトウェア
  コンピュータと本機の間でフォルダ単位で手軽にデータを転送するためのソフトウェアです。次の機能があります。

  – **自動アップロード**
    コンピュータ内のあらかじめ指定したフォルダ内のファイルを、あらかじめ指定したタイミングで本機に自動的にアップロードできます。また、手動でアップロードすることもできます。
    自動アップロードの設定を行うには、まず本機とコンピュータを家庭内LANに接続します。（14ページ）
    その後の設定方法について詳しくは、「PC Link 」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。



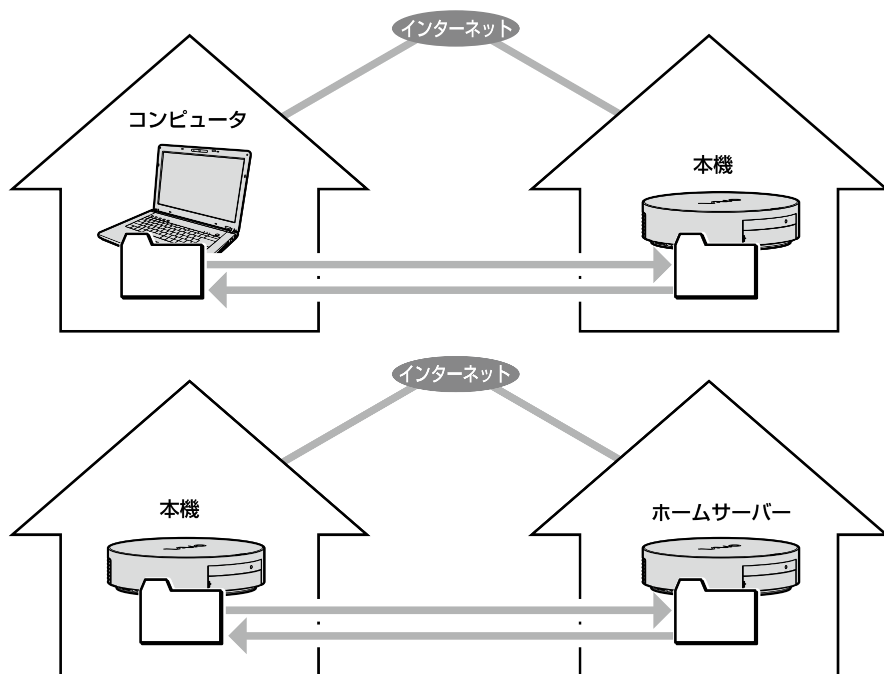
いったん設定をしたあとは、インターネットを利用して自動アップロードを行えます。



ただし、この場合はご利用になるための環境と準備が必要です。詳しくは取扱説明書の「使いかた」－「ホームアクセス機能で楽しむ」の「必要なネットワーク環境」および「ホームアクセス機能を使うための準備」をご覧ください。

– データリンク

インターネットを経由して、あらかじめ指定したフォルダを送信側の機器から受信側の機器へデータを転送することができます。



ただし、この場合はご利用になるための環境と準備が必要です。詳しくは取扱説明書の「使いかた」–「ホームアクセス機能で楽しむ」の「必要なネットワーク環境」および「ホームアクセス機能を使うための準備」をご覧ください。

「リストアツール」について

本機には、USB接続したハードディスクドライブに本機内のファイルをバックアップし、ファイルのリストアを可能にする機能があります。（本体のバックアップとリストア）

リストアツールとは、USBハードディスクドライブにバックアップしたファイルをコンピュータにリストアするためのツールです。

「PC Link」ソフトウェアをインストールすると、同時にリストアツールもインストールされます。

次のページにつづく

- 「VAIO Media」ソフトウェア
  本機に保存した音楽／写真／動画コンテンツを、ホームネットワーク上のどのコンピュータからでも視聴するためのソフトウェアです。

  ヒント
  – 「VAIO Media」ソフトウェアの最新版（Ver.6.1）または「VAIO Media Plus」ソフトウェアがインストールされていない場合にインストールしてください。
  – バイオ以外のコンピュータをお使いの場合でも、OSなどの必要条件を満たしたコンピュータであればインストールできます。必要条件について詳しくは取扱説明書の「動作環境」をご覧ください。

ソフトウェアのインストールを行う

次の手順に従って、コンピュータにソフトウェアをインストールしてください。

ご注意

- お使いのコンピュータにディスクドライブが内蔵されていない場合は、あらかじめ外付けのドライブを接続してください。
- インストールするときは、コンピュータにAdministrator（管理者）権限でログオンしてください。
- コンピュータに「ウイルスバスター」、「Norton AntiVirus」、「Norton Internet Security」などのウイルス対策ソフトウェアをインストールしている場合は、常駐を解除してください。
- 「SonicStage」ソフトウェアの音楽ファイルを本機で使用する場合は、最新版の「SonicStage」をお使いください。また、「SonicStage」ソフトウェアで音楽の取り込み時に著作権保護処理を行わない設定にしてください。設定方法について詳しくは、「SonicStage」のヘルプをご覧ください。

ヒント
Windows Vistaをお使いで「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、内容をご確認の上、[続行]をクリックしてください。

1 **コンピュータと本機をネットワークに接続する。（14ページ）**

2 **コンピュータの電源を入れる。**

3 **付属のCD-ROMをドライブに入れる。**

4 **使用許諾画面が表示されたら内容を確認し、[使用許諾契約に同意します]を指定して[次へ]をクリックする。**
ソフトウェアのセットアップ画面が表示されます。

5 必要なソフトウェアをインストールする。

画面左側のソフトウェア名をクリックすると、画面右側に説明文と「インストール」ボタンが表示されます。
[インストール]をクリックすると、選択したソフトウェアのインストールが開始されます。
画面の指示に従って操作してください。

ご注意

「PCLink」ソフトウェアをインストールした場合は、引き続き下記の「「PC Link」ソフトウェアの初期設定を行う」の手順2以降の手順に従って初期設定を行ってください。

ヒント

ソフトウェアのインストールには、しばらく時間がかかることがあります。

6 必要なソフトウェアのインストールが終了したら、[終了]をクリックする。

引き続き他のソフトウェアをインストールする場合

次の手順に従って、ソフトウェアのセットアップ画面を再度表示する必要があります。

1 [スタート]－[マイ コンピュータ]または[コンピュータ]をクリックする。
「マイ コンピュータ」または「コンピュータ」画面が表示されます。

2 CD-ROMを入れたドライブ名をダブルクリックする。

3 [SetupLauncher]をダブルクリックする。
以降、左記の手順4以降の手順に従って操作してください。

「PC Link」ソフトウェアの初期設定を行う

ご注意

iTunesで取り込んだデータを自動アップロードしたい場合は、下記の手順を行う前にいったんiTunesを起動してください。

1 [スタート]－[すべてのプログラム]－[PC Link]－[PC Link]をクリックする。

初期設定の開始画面が表示されます。

ヒント

「PC Link」ソフトウェアのインストール完了後、自動的に初期設定の開始画面が表示されます。ただし、表示にはしばらく時間がかかることがあります。

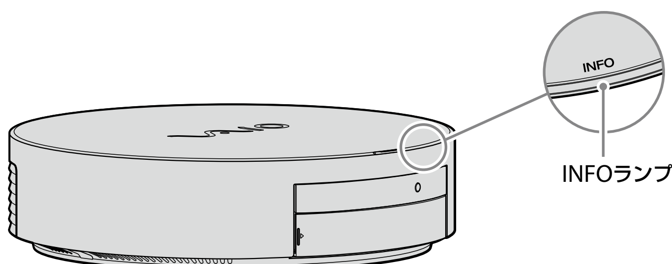
次のページにつづく

2 [次へ]をクリックする。

ネットワークに接続した本機の探索が開始されます。

3 「ホームサーバーの選択」画面で本機のネットワークハードディスク名を指定し、[次へ]をクリックする。

本機のINFOランプが青色に点滅します。



30秒経っても1台もホームサーバーが発見されなかった場合は、接続可能なホームサーバーがないとのメッセージが表示されます。[再探索]をクリックしてください。
それでも発見されなかった場合は、本機の電源が入っているか、または本機とコンピュータがネットワークに正しく接続されているか確認してください。

ヒント

- **機器名の右にサブネット相違のメッセージが表示されている場合**
  お使いのコンピュータと本機はサブネットの設定が同じである必要があります。コンピュータと本機を接続するためには、本機のIPアドレスの変更が必要です。サブネットが異なるホームサーバーを選択すると、「接続できないホームサーバーが選択されました」とメッセージが表示されます。[ホームサーバーのネットワーク設定]をクリックし、IPアドレスを設定してください。
- **本機をグローバルIPで使用している場合**
  本機がグローバルIPで使用されている場合は、下記の手順に従って操作してください。
  ① 管理者名とパスワードを入力して[送信]または[登録]をクリックする。
  登録されているDLNA対応機器が表示されます。
  ② 本機への接続を許可しない機器、または不明な機器が表示されている場合は、機器名を選択して[許可を取り消す]をクリックし、[次へ]をクリックする。
  本機の共有フォルダのリストが表示されます。
  ③ 共有フォルダへのアクセス権を制限する場合は[アクセス権の設定]をクリックする。アクセス権の制限を行わない場合、またはアクセス権の設定が完了した場合は[OK]をクリックする。
  アップロードするコンテンツを選択するメッセージが表示され、コンピュータ内の音楽コンテンツ管理用／写真コンテンツの閲覧用ソフトウェアや、音楽・写真・動画コンテンツが入っているフォルダのリストが表示されます。
  本機をグローバルIPで使用している場合は、外部の見知らぬ機器からアクセスされる可能性があります。本機の設定ページで、共有フォルダへのアクセス権の設定とDLNA対応機器の登録をすることをおすすめします。設定ページについて詳しくは取扱説明書をご覧ください。

4 本機に自動アップロードしたいフォルダを選択する。

ヒント

- iTunesを一度も起動していない場合は「iTunes」が表示されないため、iTunesで取り込んだデータが格納されたフォルダを選択できません。
  「iTunes」フォルダを自動アップロードしたい場合は、いったんiTunesを起動してから手順1以降の操作を行ってください。
- [参照]をクリックすると、自動アップロードしたいフォルダを手動で選択できます。

5 [次へ]をクリックする。

自動アップロードが設定されます。自動アップロード元のフォルダは手順4で選択したフォルダです。初期設定完了後の自動アップロードの設定方法について詳しくは、「PC Link」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

6 完了画面が表示されたら、[閉じる]をクリックする。

「PC Link」ソフトウェアのメイン画面が表示されます。

ヒント

「PC Link」ソフトウェアの使い方について詳しくは、「PC Link」のヘルプをご覧ください。

これで初期設定は完了です。設定を変更したい場合や、より詳しい使いかたについては取扱説明書をご覧ください。

用語集

アクセスポイント
無線LANから有線LANへ、または無線LAN機能を持った機器同士の通信を中継する装置のことです。
ブリッジタイプとルータータイプの2種類があり、ブリッジタイプはデータ転送の中継のみを行い、ルータータイプはデータ転送の中継に加えてルーター機能を持っています。

クライアント
ネットワークでつないだ複数のコンピュータなどの機器の中で、サーバーからデータを利用する機器のことです。→サーバー

クロスケーブル／ストレートケーブル
イーサネットなどで使われる接続ケーブルの種類です。ストレートケーブルはコンピュータとモデムやハブとの接続、クロスケーブルはコンピュータ同士の接続や、ハブ同士のカスケード接続に使われます。

サーバー
ネットワークでつないだ複数のコンピュータなどの機器の中で、ほかの機器にデータを提供する機器のことです。→クライアント

サブネットマスク
インターネットのように巨大なTCP/IPネットワークは、複数の小規模なネットワーク（サブネット）に分割されて管理されています。
サブネットマスクは、ネットワークを区切るために、ネットワークに接続する機器に割り当てられるIPアドレスの範囲を限定するしくみです。

スイッチングハブ
端末から送られてきたデータを解析して、データの宛て先を検出し、検出した宛て先にのみデータを送信する役割をもつハブ（集線装置）です。
データ同士の衝突を防ぐため、大規模なLANを構築する場合でも、伝送速度が安定します。
また、検出した宛て先のみにしかデータを送信しないので、セキュリティも向上します。

デフォルトゲートウェイ（ゲートウェイアドレス）
異なるネットワークに存在するコンピュータと通信する場合に使用する「出入り口」の代表となるコンピュータやルーターなどを指すもので、IPアドレスで特定されています。ゲートウェイは、双方のネットワーク間のプロトコルの違いなどを調整して、異なるネットワーク間での接続を可能にします。
デフォルトゲートウェイは、目的のコンピュータにデータが正しく届くように制御します。

電子メール（E-mail）
電子メール（Electronic mail）は、ネットワークを使用した、コンピュータ同士の手紙です。
文字だけではなく、画像データ、音声、ゲームのプログラムなども送ることができます。
サーバー上にそれぞれのポスト（電子メールアドレス）を設置しておき、そのポスト間で世界中の人と電子メールのやり取りを行います。

ブロードバンド
高速な通信回線の普及によって実現されるコンピュータネットワークと、その上で提供される大容量のデータを活用した新たなサービスのことです。一般的にxDSL（ADSL、VDSL、HDSL、SDSLなど）、CATV、光ファイバーなどが「ブロードバンド（broad＝広い、band＝帯域）」と呼ばれています。

ポート番号
ネットワークを介して、ネットワークに対応した複数のソフトウェアを使用するための数値です。

ルーター
異なるネットワーク同士を中継し、相互接続を行うためのネットワーク機器です。ネットワーク層のアドレスを見て、どの経路を通して転送すべきかを判断し、自分の対応しているプロトコル以外のデータはすべて破棄する機能を持っています。

ADSL
Asymmetric Digital Subscriber Lineの略で、「非対称デジタル加入線」と訳されます。これは上り（発信）と下り（受信）の速度が「非対称（Asymmetric）＝同じではない」ということで、ADSLでは「上り」より「下り」の速度を速くしています。
一般ユーザーは、Webページ閲覧やファイルのダウンロードなど「下り」の利用頻度が圧倒的に高いため、ADSLは一般のインターネットユーザーに向いていると言われています。

ADSLモデム／VDSLモデム
コンピュータをADSL回線またはVDSL回線に接続する際に必要な信号変換機のことです。

CATVインターネット
インターネットの接続を、一般回線やISDN回線を使用しないで、ケーブルテレビ用に敷設されている光ファイバー、同軸ケーブル網を使用して提供するサービスのことです。

DHCP
Dynamic Host Configuration Protocolの略で、TCP/IPプロトコル群の1つです。インターネットに接続するコンピュータに、動的にIPアドレスを割り当て、通信が終了するときにIPアドレスを回収して他の端末に割り当てるためのプロトコルです。
DHCPサーバーには、DNSサーバーやゲートウェイのアドレスやサブネットマスクなどの情報と、クライアントに割り当てるいくつかのIPアドレスをあらかじめ登録しておきます。クライアントは、DHCPサーバーにアクセスし、IPアドレスと各種設定情報を取得することによって、TCP/IPのセットアップを自動的に行い、簡単にインターネットに接続することができます。

DLNA
Digital Living Network Allianceの略で、コンピュータ業界と家電業界の企業により、ホームネットワーク環境でデジタルAV機器同士や、コンピュータを相互に接続することを目的として結成した団体、またはその規格のことです。
映像や音楽などのデジタルコンテンツは、メーカーにより規格などが異なります。そのため、静止画や音楽、動画のファイルフォーマットなどを規定し、これらのコンテンツを家庭内のどこからでもアクセスできるようにするための環境作りを進めています。

DLNA対応機器
DLNAの仕様に準拠した機器のことです。動画や音楽などのファイルを蓄積できる機器（サーバー）と、再生機能を持つ機器（クライアント）があります。

DNSサーバー（プライマリ・セカンダリ）
DNSとはDomain Name Systemの略で、インターネット上のコンピュータのドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持つサーバーです。DNSサーバーは2系統以上用意され、そのうち主系統（メイン）のサーバーをプライマリ、副系統のサーバーをセカンダリと呼びます。

DTCP-IP
Digital Transmission Content Protection over Internet Protocolの略で、ネットワーク上にデジタル放送などの著作権保護付きデータを配信させる技術の総称です。
DTCP-IPの技術により、著作権保護付きデータは、ホームネットワーク上で自由に扱うことができます。また、ホームネットワーク以外へのデータ伝送を禁止することで、著作権保護付きデータ自体を保護する役割を持ちます。

FTTH
Fiber To The Homeの略で、高速通信が可能な光ファイバーケーブルを各家庭に引き込み、高速なインターネット環境を構築する計画またはその通信サービスのことです。
光ファイバーケーブルを通信サービスの加入者宅まで敷設することで、数十Mbpsという高速なデータ通信を可能にします。

HTTP
HyperText Transfer Protocolの略で、WWWサーバーとWWWクライアントの間で、情報を交換する際に使用されるプロトコルです。HTMLに含まれるテキストや画像などの情報を、まったく変換せずにそのままデータ転送します。

IPアドレス
ネットワークに接続する機器に割り当てられる固有の番号（住所）です。通常は「192.168.10.1」などのように、0から255までの数字を4個並べて、点で区切った形で表現されます。

LAN
Local Area Networkの略で、同一フロアや同一の建物など物理的に近い位置にあるコンピュータなどを結ぶネットワークのことです。
家庭内に構築したLANはホームネットワークとも呼ばれます。家庭内の複数のコンピュータなどで、ひとつの機器や機器内のデータを共有して使うことができます。

MACアドレス
Media Access Control Addressの略で、ネットワーク上で、ネットワークインターフェースを識別するために設定されている固有の番号のことです。6バイトの数字で構成される独自のアドレスです。

NAS
Network Attatched Storageの略で、LANケーブルでネットワークに直接接続して使用する機器のことです。「ネットワークストレージ」とも呼ばれます。ネットワーク上のコンピュータのデータを保存するためのサーバーとして使えます。

ONU（光終端装置）
コンピュータを光ファイバー通信網において、ネットワークに接続する際に必要な装置のことです。

PPPoE
Point to Point Protocol over Ethernetの略です。イーサネットなどのネットワーク上でダイヤルアップ接続（PPP接続）のような利用者のユーザー名、パスワードのチェックを行うために作り出された規格であり、ADSLなどの常時接続型のサービスが採用している技術です。

SMTP ／ POP
SMTPは電子メールを送信するためのプロトコルです。メールサーバーにメールを送信するときや、サーバー間でメールを配送するときに使われます。
POPはPost Office Protocolの略で、メールの受信に使われるプロトコルの1つです。

TCP/IP
インターネットなどのネットワークで使用されている標準的なプロトコル（通信手段）です。TCP（伝送制御プロトコル）はTransmission Control Protocolの略で、送受信、フロー制御などの手順を担当します。IP（経路制御プロトコル）はInternet Protocolの略で、データグラム転送を担当します。以上の2つのプロトコルを合せてTCP/IPと呼びます。

WEP
Wired Equivalent Privacyの略で、無線LANで採用されているデータの暗号化方式です。RC4という暗号化アルゴリズムを使用しており、無線LANで通信を行う機器の双方に同じ64bit、または128bitの暗号キーを登録する共通鍵暗号方式（秘密鍵暗号方式、対称鍵暗号方式ともいいます）で、外部からデータを解読されないようにする技術です。
WEPは無線LANで標準化されている暗号化方式として採用されていますが、セキュリティの脆弱性が危惧されており、WEPに替わる新しい規格としてWPAが開発されています。

Wi-Fi
「Wireless（無線）」と「Fidelity（忠実度）」を組み合わせた言葉で、業界団体のWi-Fi Allianceが無線規格「IEEE 802.11 High-Rate Direct Sequence（DS）」を、消費者に広く認知させるために名付けました。
現在、Cisco社、3Com社、Lucent Technologies社、Nokia社、NEC社、富士通社、ソニーなど、200社以上の業界各社がこの規格に参加しており、各社のIEEE 802.11aとIEEE 802.11b対応製品の相互接続性を保証するために互換性テストを行っています。これにパスした製品は「Wi-Fi」ブランドの認定が与えられ、他社製品との互換性が保証されます。

WPA
Wi-Fi Protected Accessの略で、無線LANの業界団体のWi-Fi Allianceが提唱する無線LANの暗号化規格です。
WPAでは、従来のSSIDとWEPキーに加え、認証方式にIEEE 802.1xを採用したクライアントごとにユーザー認証を行う機能や、暗号キーが一定時間ごとに自動的に更新するTKIPという暗号化方式を用いており、暗号キーの生成を複雑にすることでWEPより安全性が強化された規格となっています。

WWW
World Wide Webの略です。インターネットやイントラネットを利用して情報を公開したり、公開されている情報を参照できるようにするシステムのことで、Webとも呼ばれています。
HTMLというマークアップ言語で文書の構造や見栄えを記述し、文書の中に画像や音声など文章以外のデータや他の文書にアクセスするためのURLというリンク情報を埋め込むことができるのが大きな特徴です。

10BASE-T
イーサネットの規格の1つで、10BASE-Tの「10」は伝送速度の10Mbpsを、「T」はツイストペアケーブルを表します。接続の最大セグメント長が100m・カテゴリ3以上のツイストペアケーブルを使用します。

100BASE-TX
10BASE-Tの規格をそのまま受け継いだ100Mbpsのイーサネットです。100BASE-TXは10BASE-Tと同様に、ハブを介して各ノードを接続するスター型で、通信速度は100Mbps、最大セグメント長は100mまでです。

1000BASE-T
IEEE 802.3abとして規定されたイーサネット規格です。10BASE-T、100BASE-TXを発展させて、1Gbpsの通信速度に対応しました。
UTPケーブルを使用しており、既存の10BASE-T、100BASE-TXに対応した製品と混合して使用することができます。

サポート情報は、VAIOカスタマーリンクホームページへ

http://vcl.vaio.sony.co.jp/

VAIOホームページ
VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
http://www.vaio.sony.co.jp/

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1
http://www.sony.co.jp/

3-298-361-**01** (2)



この説明書は、本文に古紙70%以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

